

四中だより

No. 17

令和3年(2021年)1月18日

枚方市立第四中学校

校長 鶴島 茂樹

忘れることの出来ない「1月17日」

昨日、1月17日は、阪神淡路大震災26年目の日でした。前にも書きましたが、この枚方でも、先生の家では、食器がいくつも水平に飛んで割れるような揺れでした。テレビ画面では、火の海となった京阪神が映し出され、夜が明けると、ねじ曲がった阪神高速道路の衝撃的な映像が目に飛び込みました。

忘れることの出来ない日、1995年1月17日です。

<阪神大震災 私も伝える責任> (1月17日付朝日新聞「声」欄より)

1998年生まれの私は、阪神・淡路大震災の時を経験していません。それでも、学校での避難訓練や被災した方のお話を聞く機会を通して、震災がどんなものなのかはわかっているつもりでした。でも、それは本当に「つもり」でした。

このことに気付かされたのは、小学校の卒業式を約1週間後に控えた2011年3月11日の東日本大震災でした。東京の叔母家族に滋賀から安否確認の電話をかけ続ける母の姿、震災の報道と同じCMを繰り返すテレビはまさに「非日常」でした。

なんとか予定通り行われた卒業式では、保護者らに着物ではなく黒っぽいスーツ姿が目立ちました。「華」も「花」もなく、真黒な印象でした。原発事故による不安や節電の必要性もあって、日常やものの考え方が大きく変わりました。

震災は、被災者はもちろん全ての人の日常を変えます。しかし、日常の尊さに気付かせ、変わらず月日は流れることを教えてくれます。阪神・淡路体震災から26年。私は春から小学校教諭になります。震災を経験した人生の先輩方の思いを引き継ぎ、子どもたちに伝える責任が私にはあります。(大学生)

*東日本大震災の日は、ちょうど枚方市内中学校の卒業式の日でした。先生もある中学校で3年生を受け持っており、式が終わり、卒業生を送り出した後、そのニュースが飛び込んできました。

実は先生の息子は、当時、宮城県に下宿していたのです。あわてて、電話をかけましたが、携帯は3日間全く音信不通の状態でした。幸い、無事だったのですが、こちらへ帰ってくるのに、いったん新潟まで迂回せざるを得なくて、2日間かかりました。

現在はコロナで大変な状況ですが、それも含めて、災害は、過去の教訓を生かし、力を合わせれば必ず乗り越えることができるはずです。そのためにも、過去を知り、未来に生かそうとする想像力と知恵と実行力が必要だと思います。

これからの毎日も、みんなで力を合わせてがんばっていきましょう！！